

林業普及指導員の「木材利用推進」情報

■北海道（総合）振興局森林室に勤務する林業普及指導員からの情報です

酪農業と林業をつなぐ木材利用

～酪農業施設に地域材を～

根室振興局森林室

【地域の現状・背景】

根室管内は、道内有数の酪農地帯で約1,400戸（全道酪農家戸数の約21%）が酪農業を営み、その畜舎数は約4,000棟となっています。畜舎の構造を見ると、平成20年度から現在にかけ建築された畜舎25棟のうち、木造および一部木造は9棟と畜舎の木造化が進んでいない状況です。

一方、林業においては一般民有林の人工林のうち、Ⅶ齢級以上が約6割を占めるなど、建築材として利用可能な時期を迎えつつあります。また、当管内で伐採された大径材の多くが管外に移出されており、地元での利用拡大が大きな課題となっています。

このことから、酪農業施設（以下、畜舎）の木造化推進により、地域材を酪農業で有効利用する取組を展開したので紹介します。

【取組の内容】

当森林室では、平成22年度から振興局施策（根室・釧路）『酪農王国木造牛舎推進プロジェクト事業』を実施し、木造牛舎普及検討会議を設置して、①アンケート調査、②木造牛舎設計提案書の作成・配付、③木造牛舎見学会の開催を行ってきました。

① アンケート調査の実施

根釧管内の酪農家982名を対象にアンケートを実施しました。その結果、牛舎を建築する際は「建設コストが安い」「日々の作業性がよい」「牛舎環境がよい」の3つの項目が、重要視されていることが分かりました。このため、これらの項目を考慮し、木造の優位性や推奨する木造牛舎の基本構造などを提案書に掲載しました。

また、更新を予定している牛舎の構造では、54%の方が鉄骨・ブロック造（非木造）と回答しており、今後、木材の特徴や木造の利点を伝えることがポイントであることが分かりました。



提案書で推奨する木造牛舎

② 木造牛舎設計提案書の作成・配付

酪農経営者に木造牛舎の優位性を伝え、木造牛舎建築を普及するため、試験研究機関の研究成果を踏

まえ、木造牛舎に関する情報等をまとめた提案書を平成25年3月に作成し、関係機関へ配付しました。

○提案書の主な内容

- ・木造牛舎の提案（構造等）
- ・木造及び鉄骨造牛舎のライフサイクルコストの比較
- ・木造牛舎建設の地域材活用のために
- ・牛舎に関するアンケート調査結果

根室振興局林務課HPからのダウンロード
：<http://www.nemuro.pref.hokkaido.lg.jp/ss/rnm/rinsan.htm>



木造牛舎設計提案書

③ 木造牛舎見学会の開催

平成25年3月、酪農家、農協、自治体、施工業者等34名参加のもと木造牛舎見学会を開催しました。

施工主より木造を選択した理由や木造の利点について説明していただき、中でも「ライフサイクルコストに係る固定資産税が、鉄骨造と比較して安い」「建築費は鉄骨造と大差ない」ことが、選択した理由としてあげられました。



木造牛舎見学会

【取組の成果】

・木造牛舎設計提案書を根釧管内の農協・自治体・森林組合等に配付することで、酪農業関係者をはじめ、林業関係者にも幅広く周知することができました。

・見学会では、参加者に木造牛舎の優位性を認識させることができ、木造牛舎建築に向けた意識の醸成を図ることができました。

【今後の取組】

現在、約4,000棟ある施設の構造や築年数など、詳細なデータが整理されていません。このため、森林室では、さらなる牛舎の情報収集を行い、課題を整理するとともに、木造牛舎見学会の継続開催やマスメディアを通して情報発信をするなど、地域材を利用した木造牛舎の推進に向け取組を進めます。